



今月号のあれこれでは
令和元年からはじまった
森林工芸館の「出張授業」について
お伝えしていきます

授業の資料となる「秋岡コレクション」は
オケクラフトの生みの親である
秋岡芳夫さんが収集した生活道具ですが
どんな風に利用されているか
ご存知でしょうか？

出張授業の取り組みのほか
秋岡コレクションの利用方法
資料への秋岡さんの思いについても
秋岡さんの言葉とともに紹介していきます

「来てもらう」から「行く」へ

秋岡コレクション の活用

- 出張授業の取り組み -

きほんのおはなし…【秋岡コレクション】とは？

秋岡芳夫さんが半生をかけて収集した日本の生活道具などの資料約 6,500 点と、関連図書や映像資料などを合わせた 18,000 点からなる資料のことをいう。秋岡さんは、工業化社会の中で失われていく手の技、特に優れた日本の木工技術に注目し、これらを未来へ継承するために資料を収集していた。



人と、木と、おけと

OKE
CRAFT
オケクラフト

秋岡コレクションのいろいろ

▶①秋岡さんはなぜ、資料を集めるようになった？
⇒秋岡さんは、日本の手仕事について次のような言葉を残しています。

「昭和って時代は、街がモノを作り、繕いながら使いこなす文化を持っていた最後の年代。そして街がモノを作らなくなった、モノを大量に使い捨てるようになった最初の年代なんだ。江戸、明治、大正と受け継がれてきた、自然の風土に根ざす民族の知恵が頂点に達し、結晶したのが職人の手道具やさまざまな生活の道具だと思う。…これらを今のうちに集め、保存しないと日本人の創り上げた豊かな生活技術や知恵は永遠に失われちゃう。」



▶②集めた資料はどんなもの？どんな風に使うの？

【触ることを目的とした資料】

秋岡コレクションは生活道具。展示ケースに保管されるだけでなく、実際に使用されることが秋岡さんの思い描いた資料の利用方法。

【「手仕事の流れ」が分かる資料】

秋岡資料は、モノづくりの一連の流れが分かるように資料が収集されている。また類似した資料が様々にあること、各地の資料があることで、比較し学びを深めることができる。

鋸を取り巻く資料

木材加工の道具↓
両刃鋸

両刃鋸を作る道具→

- ① 挽き切りヤスリ
- ② 目振り器
- ③ 鍛造用金槌
- ④ 挟み板
- ⑤ ふいご
- ⑥ 刃物の材料



町内施設での資料展示

▶町内施設での資料展示…資料はどこで見ることが出来る？



森林工芸館⇒食の道具



図書館⇒仕事の道具他



どま工房⇒年1回企画展

町内展示では見る機会も、見られる種類も少ない。機会を増やすには？
⇒「来てもらう」から「行く」へシフトチェンジ！

出張授業について

▶森林工芸館では、「ふるさと教育」の一環として、令和元年度より秋岡コレクションを用いた「出張授業」を実施しています。

【ふるさと教育とは】

郷土の貴重な資料やその歴史を知ること、自身が生活する置戸町がどのような町なのかを知り、地域に愛着を持つことで興味関心を深め、さらなる学びを促す教育のこと。

【出張授業とは】

主に美術館や博物館を中心として行われる教育普及事業のひとつ。学芸員が地域の小中学校に赴き、館が所蔵する作品を持ち込んで解説や授業を行うもの。森林工芸館では「秋岡コレクション」を学校に持ち込んだり、どま工房に来ていただいて授業を行っている。小学校4年生から中学校3年生までの6年間、通して実施することで秋岡コレクションについて深く学ぶ機会を作っている。

【出張授業の様子】

◎上段
資料持ち込み授業
⇒中学校での授業



◎下段
どま工房での授業風景
⇒どま工房への見学・資料の体験も含めた授業

